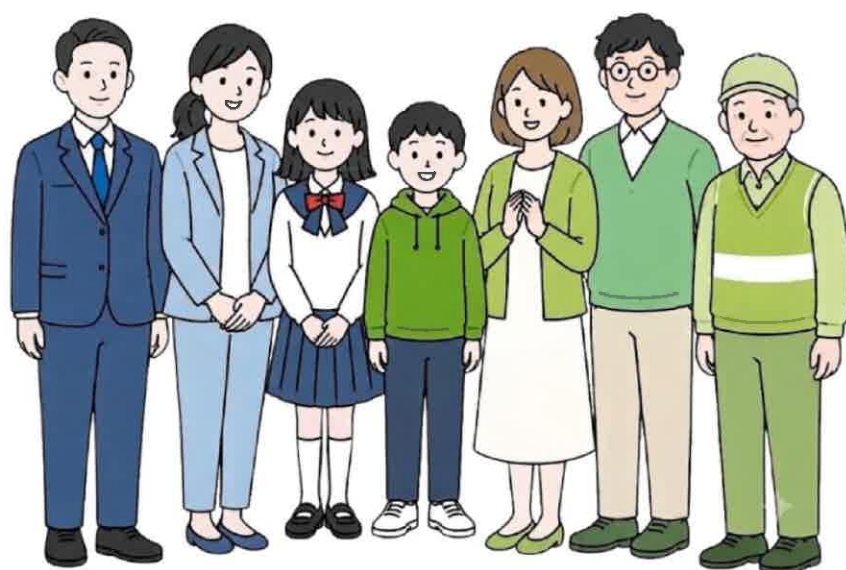




学校と家庭(地域)の よりよい関係構築のための ガイドライン



信頼と対話に基づく
パートナーシップの向上を目指して

令和8年10月
北九州市教育委員会



目次

はじめに

ガイドライン策定の背景・目的
ガイドラインの位置付け

01

第1章

学校を取り巻く現状と課題

03

第2章

北九州市が目指す
学校と家庭（地域）のよりよい関係

04

第3章

学校と家庭（地域）の日常的な関係づくり

05

第4章

学校と家庭（地域）のための相談体制

10



学校と家庭（地域）は
すべての子どもの成長を支える
“パートナー”



学 校



家庭(地域)





ガイドライン策定の背景・目的

近年、学校を取り巻く環境は大きく変化し、学校に求められる役割は、より多様化・複雑化してきています。また、変化に伴って増大する教職員の業務を改善し、「子どもと向き合う時間」を確保することも喫緊の課題です。このような社会においては、学校と家庭（地域）が良好な関係を築き、協力体制を強化していくことが一層重要となっています。

学校と家庭（地域）は、子どもの成長を支える重要なパートナーです。しかし、学校に寄せられる相談や要望の中には、学校だけでは対応が難しいケースも見られるようになってきており、教育委員会や関係機関が連携し、組織的に対応することが必要となる場合があります。国においては、令和8年2月に、厚生労働省が「事業主が職場における顧客等の言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置等についての指針（いわゆる「カスハラ防止指針」）」を公布し、同年4月に、文部科学省が教育委員会に対して通知を発出するなど、教育現場においても、対応方針の明確化や相談体制の整備、迅速かつ適切な対応等が求められています。

こうした動向を踏まえ、北九州市教育委員会では、**学校と家庭（地域）のよりよい関係の構築**を目的として、本ガイドラインを策定しました。本ガイドラインを通して、学校と家庭（地域）の信頼関係を深め、子どもが安心して学べる質の高い教育環境の実現を目指します。

本ガイドラインがもたらす効果

子ども



- ◆信頼し合う学校と家庭（地域）に見守られ、安心して過ごしたり、存分に自分らしさを発揮しながら学んだりすることができる。

学校 （教職員）



- ◆保護者や地域の方との信頼関係が構築され、前向きな協力が得られる。
- ◆困難な事案にもチームで対応できるようになる。
- ◆子どもと向き合う時間が確保され、働きがい向上する。

保護者・ 地域の方



- ◆安心して学校に相談することができ、解決に向けて共に考えることができる。
- ◆子どもを支えるパートナーとして、信頼関係のもと、学校の取組に参加・協力しやすくなる。



ガイドラインの位置付け

学校と家庭（地域）の関係は、一般企業と消費者、行政機関と市民の関係とは異なり、次のような実態や特質があります。

- ①学校と家庭（地域）との関係は、子どもが卒業するまで、あるいは、それ以降も続いていく「継続的な関係」である。
- ②多くの保護者や地域の方々は、学校に対して協力的である。
- ③学校と家庭（地域）のミスマコミュニケーションや教職員の対話スキル・対応力の不足が原因となって生じるトラブルも少なくない。
- ④一方で、一部の保護者等による社会通念上許容される範囲を超えた言動に対しては、組織的かつ毅然とした対応が必要である。

これらを踏まえ、本ガイドラインは、学校と家庭（地域）のよりよい関係構築のために、双方が大切にする『共通の指針』として策定しました。なお、④については、国や市の方針等との整合を図りつつ、学校現場の特質に応じた内容に整理しました。

本ガイドラインと「北九州市こどもまんなか教育プラン」との関係性

「北九州市こどもまんなか教育プラン（令和6年8月）」では、質の高い教育環境の充実を目指し、5つのミッションを推進しています。本ガイドラインは、学校と家庭（地域）のよりよい関係を構築することで、特に関連性の高いミッション4・5の実現に、ひいては、ミッション1の実現に貢献します。



ミッション1

全てのこどもにとって「居心地のよい学校」をつくる



ミッション2

こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる



ミッション3

誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める



ミッション4

自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める



ミッション5

地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てる



学校を取り巻く現状と課題

複雑化・多様化する学校の現状と課題（全国）

いじめ重大事態の増加

10年間で **約3.1倍**
(H26:449件 → R6:1,404件)

不登校児童生徒数の増加

10年間で **約2.9倍**
(H26:122,897人 → R6:353,970人)

教職員の厳しい勤務実態

時間外勤務時間が一般行政職の **約2.9倍**
(R6:【一般行政職】月約11.7h、【小・中学校教諭】月約34h)

人材確保の難しさ

不足教員数 4年間で **約1.6倍**
(【小・中学校】R3:1,701人 → R7:2,730人)

教職員が感じる「負担・ストレス」の要因（OECDの調査より、上位2つを抜粋）

多すぎる事務的業務

【小学校】	【中学校】
日本…66.0%	日本…62.8%
諸外国…53.4%	諸外国…51.7%

保護者の相談や要求への対応

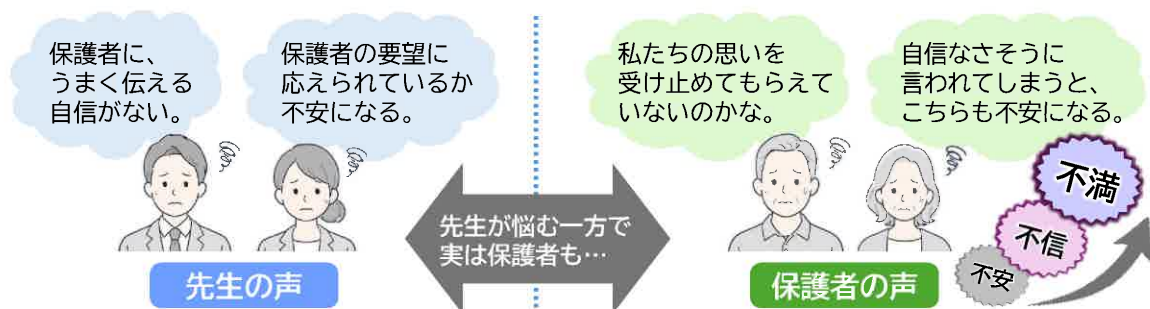
【小学校】	【中学校】
日本…58.7%	日本…56.4%
諸外国…48.6%	諸外国…41.6%

（ストレスを「かなり感じる」または「非常によく感じる」と回答した割合）

【総務省・文部科学省の公表資料、「OECD国際教員指導環境調査2024」を基に作成】

北九州市立学校の実態

本市の学校現場では、経験年数の少ない教職員の割合が増えてきています。



保護者の小さな「不安」が、大きな「不信」「不満」に膨らんでしまうことも少なくありません。「人」「**仕組み**」「**環境**」を一層充実させる取組が必要です。

現状と課題を
踏まえた
取組の方向性

人づくり

- ✓市独自の研修の実施
- ✓校内OJTの充実

仕組みづくり

- ✓ガイドラインの策定
- ✓学校の相談体制づくり

環境づくり

- ✓録音機能付電話機の導入
- ✓業務改善の推進



北九州市が目指す 学校と家庭(地域)のよりよい関係

北九州市が目指す『学校と家庭(地域)のよりよい関係』とは、双方が「対等な関係であること」「互いに尊重し合うこと」「共通の目的に向かって協力すること」を大切にしながら築く“**パートナー**”としての関係です。学校と家庭(地域)にとっての「共通の目的」とは、子どもの健やかな成長に他なりません。

以上のことを踏まえ、本ガイドラインの基本理念と方針を次のように決めました。

本ガイドラインの『基本理念』

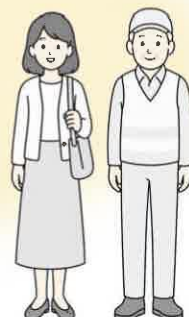
学校と家庭(地域)は 
すべての子どもの成長を支える
“**パートナー**”



学 校



家庭(地域)



よりよい関係構築のための3つの方針

子どもの成長と
学びを第一に



子どもの健やかな成長と豊かな学びを支えることを常に最優先に。双方が常に意識すべき原点となる考え方です。

役割を自覚し
積極的に協力



それぞれの立場や役割を理解し、得意なことを活かして互いに協力しながら子どもの成長と学びを支えます。

丁寧な対話と
相互理解を大切に



丁寧に対話を重ねつつ、互いの思いや状況を尊重し合いながら、相手への信頼と理解を深めていきます。



学校と家庭(地域)の日常的な関係づくり — 教職員のスキルアップに向けた取組 —

北九州市教育委員会では、**教職員の対話スキルや対応力の向上**のために、以下のような取組を推進しています。

北九州市独自の「コミュAGE」研修の実施

北九州市独自の「コミュAGE」研修は、教職員の対話スキルや対応力の向上、知識のアップデートを目的に、ロールプレイやケーススタディを織り交ぜながら実施している研修です。主な対象者や内容は次のとおりです。

対象者	主な研修内容
入職前の採用予定者	上司や同僚との接し方 基本的な対人マナー 電話応対等の接遇
新規採用教諭	対話(傾聴) 電話応対スキル
四年次教諭	ソーシャルスキル
管理職、 希望する教職員	法的視点を基にした対応



研修の具体例紹介【対象：入職前の採用予定者】

【研修内容】

- あいさつ
- 雑談コミュニケーション
- 質問の仕方
- 電話応対
- 記録の取り方

【電話応対ロールプレイ (イメージ)】

- 〈設定〉クラスの子どもの発熱に伴い、保護者に迎えをお願いする電話をかける。
〈ロールプレイ〉以下の例を参考に、自分で工夫して電話してみましょう。
- ① **名乗る** : こんにちは。北九小学校のAと申します。
 - ② **状況の伝達** : Bさんが、2時間目終了後に頭痛を訴えてきて、今、保健室で休んでいます。熱を測ったら、38.3℃ありました。
 - ③ **依頼・確認** : お迎えに来ていただくことはできますか。何時ごろ、どなたにお越しいただけますか。
- ◎ 放課後、改めて保護者に連絡し、迎えへのお礼や早退後の子どもの様子、翌日の登校の可否等について確認するとよいです。

【受講者の声】

- ・説明会に来る前は不安だったけれど、講座を通してコミュニケーションの上手なとり方や先輩方との関わり方を学び、不安が減りました。
- ・電話応対になかなか慣れず、緊張してしまうことが多いですが、言葉遣いなどを意識して、メモを必ず取りながら頑張っていきたいです。

(令和8年度)
入職前の採用予定者の
93.1%が
「**不安が軽減された**」
と回答



このほか、最も大切な**子どもとの関係づくり**や**授業づくり**、**学級経営**などについても、教育委員会主催の研修や校内研修、日々の校内OJTを通して、教職員としての資質・能力を高めることができるよう努めています。



学校と家庭(地域)の日常的な関係づくり

ー 日常的なコミュニケーションの充実 ー

学校と家庭(地域)は、子どもの健やかな成長を支える**パートナー**です。私たちのまんなかには**“子ども”**がいることを忘れず、立場や役割の違いを互いに理解し、協力しながら、すべての子どもの学びと安心を支える関係づくりを目指します。



日常的なコミュニケーションで大切にすること

学校が大切にすること

◆ 傾聴・受容・共感の姿勢



保護者等の相談や要求の背景にある思いや願いをまずはしっかりと受け止めましょう。

◆ 丁寧で分かりやすい説明



事実に基づき、簡潔かつ丁寧に話しましょう。事実確認に時間を要する場合は、必要な時間の目安や途中経過を伝えましょう。

◆ 学びを保障する組織的対応



相談等に関わる子どもや保護者に誠実に向き合うとともに、その他の子どもの安心や学びも大切にするため、学校全体で役割を分担しながら対応しましょう。

家庭(地域)が大切にすること

◆ 早めの情報共有



気になることは早めに学校に連絡しましょう。早めの情報共有は、トラブルの未然防止や子どもの成長につながります。

◆ 事実に基づく相談と協力



行き違い等を防ぐため、憶測や伝聞ではなく、事実に基づいて相談し、学校とともに解決の方法を考えましょう。

◆ 学校の役割への理解



学校が教育機関であり、多くの子どもの学びの場であることを踏まえ、教育活動や教職員の勤務時間への配慮を心がけましょう。

両者とも、**子どもの規範となるよう、社会通念に則った言動**を意識しましょう。



学校と家庭(地域)の日常的な関係づくり

— 日常の中にある対話の機会の活用 —

学校と家庭（地域）には、それぞれにしか見えない子どもの姿があります。日常の中にある対話の機会を活用し、互いの気づきを共有することで、よりよい関係が構築され、子どもをより多面的に理解することができるようになります。

活用できる対話の機会や共有するとよい内容

活用できる対話の機会



(例) 欠席した子どもの体調確認のため、担任が保護者に電話をするとき
P T A活動で来校していた保護者と担任が偶然顔を合わせたとき

共有するとよい内容

成長・頑張り 「できるようになった。」
「〇〇に挑戦している。」

気づき・変化 「いつもと少し違う。」
「こんな変化があった。」

思い・願い 「こう育ってほしい。」
「〇〇を大切にしたい。」

機会をとらえた「成長・頑張りの共有」へ

学校から家庭（地域）へ

子どものプライバシーや心理的安全性に配慮した上で、学校での様子を、機会をとらえて共有しましょう。



困っている友達に優しく接していて感心しました。

最近、授業中の発言が増えてきていますよ。

家庭（地域）での様子も踏まえて、子ども理解を深めましょう。子どもとの会話のきっかけにもなります。

家庭（地域）から学校へ

学校でのよい変化や成長を家庭でも褒めましょう。ただし、過度な期待の押し付けには注意が必要です。

最近、学校の話をよくするようになりました。

地域クラブに参加して、頑張っています。

家庭（地域）で見つけた「学校では見せない子どもの姿」を学校に共有しましょう。

それぞれの場所で見せる“その子らしさ”にしっかりと目を向けましょう。



何気ない日常の気づきの共有が、深い信頼関係につながります。それぞれが子どもの姿をよく見て、機会をとらえて共有しましょう。



学校と家庭(地域)の日常的な関係づくり

— よりよい関係構築を支える環境づくり —

電話は、学校と家庭（地域）をつなぐ大切なツールの一つです。一方で、聞き違いや記憶の曖昧さから認識のズレが生じることもあります。そこで、北九州市教育委員会は、互いの話をより正確に受け止め、安心して対話できる環境を整えます。

録音機能付電話機の導入

大切な日常のやり取りに、正確性と安心感を



録音機能付電話機の導入は、互いに安心して対話するための環境づくりの一環です。同時に、双方が言葉の背景にある思いや願いを受け止めながら、丁寧な対話を心がけることが大切です。なお、この電話機は、学校への着信時・学校からの発信時のいずれの場合も、通話内容が録音される仕様となっています。



録音データについては、電話機の運用マニュアルに基づいて、適切に活用したり、保存・管理したりします。また、トラブルが生じた際の事実確認等に活用したり、警察や裁判所等からの求めに応じて提出したりする場合があります。

期待される4つの効果

① 会話を正確に振り返る



聞き取った内容や伝えた内容を正確に記録し、必要に応じて確認できます。

② 行き違いや思い込みを減らす



記憶だけに頼らず、記録を基に確認することで、認識のズレや誤解を防ぎます。

③ 丁寧な対話につながる



丁寧な言葉遣いと分かりやすい話し方を心がけるきっかけとなります。

④ 相互理解と次の対話につながる



落ち着いた対話によって相互理解が深まり、今後の対話も円滑に進みます。



安心して積極的にコミュニケーションを図り、互いの信頼関係を深めていきましょう。



マンガで考える！ 学校と家庭(地域)のよりよい関係構築

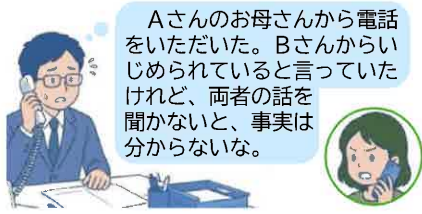
“大きなトラブル”の原因は“小さなすれ違い”・・・？

先生の視点

① なんだかモヤモヤする



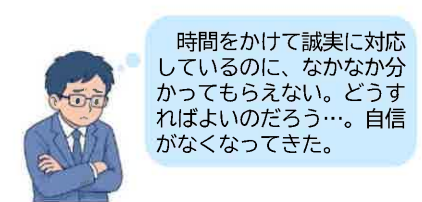
② 保護者からの相談



③ 事実確認に時間がかかる



④ 理解してもらえない



小さな違和感やモヤモヤを感じたときは・・・
先生方は、**同学年の先生や学年主任と情報共有**しましょう。
保護者の方は、まずは**担任の先生に早めに相談**しましょう。



子どもから聞いた話の内容を冷静に学校に伝えましょう。まずは**事実の確認**が必要です。



事実確認に時間がかかることをきちんと保護者に伝えましょう。連絡した段階での途中経過も伝えるとよいです。



事実確認に時間がかかっています。二人の間に少し勘違いがあったみたいです。もう少し話を聞いた後、**学級全体にも指導**したいと思います。

そうだったんですね！丁寧に対応していただき、ありがとうございます。少しホッとしました。息子にも改めて話を聞いてみます。

保護者の視点

① 息子がいじめられている!?



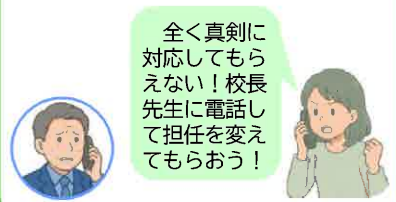
② 学校(担任の先生)へ相談



③ 対応が遅い！



④ もう信じられない！



共通の願いは、子どもの“笑顔”と“安心”です！



学校



家庭(地域)

学校と家庭(地域)が互いの事情や思いを理解した上で、子どものために事実に基づく対話を重ねることが大切です。